

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070300569		
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	桐生ケアセンターそよ風		
所在地	群馬県桐生市相生町1丁目160-1		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.syzk.co.jp/
----------	---------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ベテラン職員が多いので高い介護サービスが提供できています。 お客様に自立支援を促し、できることは極力ご本人様へやって頂くことで、ADLの維持・向上ができていますと感じております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍面会制限があるため、利用者家族にグループホームだよりを毎月送付して、行事やレクリエーションに参加している様子をカラーのたくさん写真で伝え、家族の安心に繋がるように取り組んでいる。昼食はセレクトメニューとして、魚・肉の2種類から選択できるシステムで、その他、美食祭り、旬の食材を使ったメニューの食事が毎月1~2回楽しめたり、誕生日にはケーキを準備し全員でお祝いをしたりしている。また、日曜日は職員が3食作っており、利用者の希望を取り入れている。そうしたなか、食器の後片づけを利用者と一緒にするなど、残存機能を活かした支援がなされている。排泄に関しては、現在おむつを使用している利用者はおらず、立位を保持してトイレでの排泄を支援することを職員が共通理解のうえ取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が確認、共有できるように事務所に掲示し、会議の際に唱和を実施。	月1回のグループホーム会議で、唱和している。経験が長い職員が多く、各自理念を理解し介護していると考えている。	職員一人ひとりが理念をどう理解し、利用者に関わる際に、理念をどう具体化しているのか把握する機会や、理念を掘り下げて確認する機会をもつことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの訪問をお願いしたり、近隣のお店を使用させていただいている。	1階のデイサービスに和太鼓のボランティア訪問時などには参加して、デイサービス利用者や地域の方と交流している。コロナ禍前は、近隣のスーパーに出かけたが、今は訪問販売が週2回軽トラックで敷地内に来てくれる機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方に参加をお願いしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を開催し、意見交換や指導を頂いております。	コロナ禍で書面開催だったが、7月からは対面での開催となり、活動報告の他、市からの要望によりヒヤリハット・事故報告等を毎回報告している。議事録はホールに置き、来所時に閲覧できるようにしている。	会議で双方向による意見交換が行われるような、意見が表出しやすい会議となるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空室情報を確認。 運営推進会議への参加。 運営について相談もおこなっている。	事業所の空室状況を報告している。その他、外部評価の実施回数やショートステイから直接入居となる利用者の請求方法などを相談した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の適正化会議をおこない、意識の向上に努めております。	身体拘束はしておらず、日々の介護の中でスピーチロックが見られた場合には、その都度指導している。動き始めてしまう時に「どこに行くの」「待って」「立たないで」という言葉は発しないように注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回以上の研修をおこない、虐待ではないのかと感じた時は都度報告をするように防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援について積極的に取り入れ、必要に応じて青年後見制度がある事も伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を心掛け、いつでも質問できる事をお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・要望がある際には、いつでもご連絡をお受けできるようにお伝えしている。 重要事項説明書に行政等の連絡先も明記させていただき、何かあればそちらにも相談ができるようにしております。	グループホームだよりには、利用者の担当職員から一言記載していたが中止してしまったため、家族から書いてほしいという要望を受けて、出来るところから実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見などがある時は会議の際だけでなく、定期的な面談を設け、相談ができるようにしています。	月に1回、18時からグループホーム会議を開催し、連絡事項や利用者の介護に関しての意見交換をしている。また、勤務シフトについては相談して作成し、働きやすい環境を作っている。ケアセンター長が、年に1回介護技術の評価等個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に一回給与の見直しの際に評価を実施しております。 その際に面談をして説明しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を通して、職員の向上を図り、より良いサービス提供ができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他センターでの協議会開催をおこなうことで情報交換ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様との会話やご家族様からの情報の中から不安や要望を汲み取るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階で、お困り事などをお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の状態により、より良いサービスを考え、提供するように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らしていると意識して支援をしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の支援はご家族様ともに行うこととしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外の面会も歓迎しております。時には電話にてお話をさせていただく場面もありました。	現在は予約制であるが、家族や友人などの面会は可能であり、コロナ禍でも家族が見えた時はガラス越しで顔を見てもらったり、電話で話をしたりして、関わりが継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を考慮しており、会話を楽しめるように工夫をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネジャーや相談員への情報提供をすると共に、お困りの時はいつでも相談できることは伝えております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様との日々のご様子。会話などから求めている事を見つけ出し、共有しております。	日頃のコミュニケーションの中から、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な言葉で伝えられない利用者には、表情や発した声等から判断したり、職員間で利用者が嫌がったり、喜んだりした場面の対応などを検討したりして、共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や、ご本人様・ご家族様から聞き取りを行い、書面に残すようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活から出来ること、できない事その時々のお気持ちなどを把握するように努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が接して感じてきた事や出来事などの情報を共有していくと共に、定期及び随時のモニタリングとカンファレンスにより計画をしている。	介護計画書の短期目標やサービス内容は、具体的に書かれている。モニタリングは、利用者の担当職員が3ヶ月毎に作成している。アセスメントは6ヶ月毎に行い、介護計画書を作っている。	介護計画にそった日々の支援の記録と、その達成状況や評価がわかるような記録により、介護計画と評価・次の介護計画がつながるような工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子はもちろんですが、いつもと違うことについては、細かく記録しており、ヒヤリハットや申し送りにて共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に対応できるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りへの参加。協力しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望されるかかりつけ医との関係を大切にできるように支援しております。	通院している方を除いては、事業所の協力医療機関である診療所の医師の訪問診療を、週1回受けている。訪問看護は24時間体制で、週1回訪問し、体調管理や巻き爪・摘便処置を行っている。歯科医師には、必要時、往診を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師やできサービスの看護師に相談・指示をいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様の情報を病院へ情報提供をおこなっております。 入院時は治療経過の把握に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に延命処置の確認をするが、悪化してきた場合には医師と相談をおこない、医師とご家族様との話し合いによりご家族様の意向に沿うように支援しております。	事業所の基本的な方針は、看取りはしない方針であるが、家族と医師の相談のもと、今までに2名の看取りを行っている。入居時に、事業所内で心肺停止状態となった場合の確認書をいただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ベテラン職員に於いて対応できるが、新人職員は研修を受け、現場での実践が必要である。 ベテラン職員との組めるようにシフトを配慮しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施。 避難方法を身につけるようにしております。	避難訓練は、年2回実施している。8月には日中想定で、1階デイサービスと合同で通報・初期消火・避難訓練を行っており、次回は11月を予定している。備蓄は、水・アルファ米・缶詰など3日分を用意している。隣が大家であり、災害時の協力が得られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を呼ぶ際には「〇〇さん」と呼ぶことで統一しております。 個人の細かなお話については、オブラートに包むように特定できないようにして会話に気をつけて対応しています。	利用者が特定できないように表現して、重要な連絡事項に関して事務所で話すようにして、職員間の共有を図っている。トイレや入浴時の処置時は小声で話し、他の利用者には気づかれないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の様子を観察し、その方の思いを汲み取れる対応を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日内変動のある認知症の方々にあり、規則正しい国は無理もある為、常に様子を観察し希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に上下のコーディネートを考え、着ていただいている。 特別な時には写真を撮る為、好みの物を選んで着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はセレクトができるので、お好みをお聞きするテーブル拭きや食器拭きなど、できる方にお手伝いをお願いしております。	昼食はセレクトメニューとなっており、2種類から利用者が好きな方を選べるようになっている。美食祭り、旬の食材を使ったメニューを月1回実施している。誕生会にはケーキを準備したり、日曜日は3食職員が作るため利用者の希望を聞いたりして、元気で楽しく過ごせるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嫌いな物、食べられない物がある時は、入居時早めに聞き取りをおこない、代替を提供させていただきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は、ご自分で実施。 そうでない方は、出来る所までやって頂き、出来ないところは、介助にて実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の行動を察知し、お声かけにて誘導。なるべく出来る所は、やって頂くようにしております。	現在、おむつ使用者はおらず、排泄パターンを把握し、トイレに誘導している。手すり等に掴まって立位保持が出来るようにし、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動に参加していただき、体を動かす機会を設けています。 自力でできない方は介助にて実施しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2つのユニットがある為、曜日は決めておりますが、時間は伺って入りたいタイミングにて入浴していただいております。	週3回の入浴が基本であるが、体調や希望に合わせて支援している。浴槽は一人用なので、車いすの方はシャワー浴としている。季節に合わせてゆず湯や入浴剤を入れたり、温泉マークののれんや音楽をかけたりして、楽しく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中疲れている様子のある方にはお声掛けし、休んで頂きます。 「休みたい」と希望されるお客様にはその都度対応させていただきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず飲んでいただけるように、お薬ゼリーを使用したり、まとめて一度に飲めない方には1錠ずつ対応。粒が苦手な方には医師に相談をおこない、粉にしてもらうなどの対応をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中つまらない事がないように会話を楽しんだり、手作業をおこなったりしております。月々の行動レクをおこない、楽しんでいただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが緩和され、早く以前のように戻りたいと思っておりますが、まずは面会から徐々に緩和していければと思っております。	コロナ禍前は、外食や花見やいちご狩りなどに出かけていたが、現在も外出ができていない。グループホームは2階なので、ベランダに出て外気に触れたり、景色を見たりしている。9月には桐生花火大会を、フロアーから見て楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回の買い物を大変楽しみにしている方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望のある方には、ご家族様の了解を得て、いつでも掛けられるように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物などは季節の物を廊下等に掲示させていただき、皆様が楽しそうに映っている写真も掲示させていただいております。	フロアー・食堂や各部屋は、カーテンではなく障子を使用して、和風で家庭的な雰囲気がある。年末には、職員が障子の張り替えを行っている。テレビの音量や照明にも注意して、居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2つのユニットがある為、いつでも行き来できるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に入居時お聞きし、その方に合った物、またご本人様の希望に合う物をそろえております。	入居時に、家から持参したタンス・仏壇・寝具等を利用したり、机の上に写真を並べて昔の思い出を楽しんだりして、過ごしている方もいる。眠りスキャンを6台装備して、ベットセンサーにより離床の把握や睡眠時の心拍数・呼吸数を自動検知でき、体調変化の早期発見や睡眠状態の把握ができる設備を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には大きなネームプレートがあり、見てすぐにわかる表示になっております。		